

米田のFP通信



ちょっと気になる「保険」や「年金」についての話題をお届けします。

ご挨拶

新しい年を迎え、穏やかにお過ごしのことと思います。令和7年が皆様にとって、より良い年になりますようお願い申し上げます。

今年の干支は「乙巳（きのと・み）」です。「乙」は十干の2番目で、木（き）を表します。芽が出たばかりの柔らかい草木のように、成長を始めた状態を象徴します。「巳」は脱皮を繰り返し成長する蛇（へび）に例えられます。

変化に柔軟に対応しながら成長する一年になりそうですね。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

宝くじや初詣のお賽銭でどのくらいの金が使われているかご存知ですか？この金額を見ると皆の夢や願いの大きさが想像できますね。

単身世帯、大幅に増加

昨年11月に国立社会保障・人口問題研究所は「日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）」を発表しました。世帯数は2020年の5,570万5,000世帯から2050年には5,260万7,000世帯へと、30年で5.6%減少します。

世帯数の変化の中で特に気になったのが、高齢者世帯と高齢者世帯に占める単身世帯の増加です。下表は2020年から2050年までの全世帯に占める75歳以上世帯の割合と、75歳以上世帯に占める単身世帯の割合の推移です。

	全世帯に占める75歳以上世帯の割合（％）	75歳以上世帯に占める単身世帯の割合（％）
2020年	19.1	39.1
2025年	22.4	40.4
2030年	23.7	42.2
2035年	23.7	43.9
2040年	24.1	45.3
2045年	25.4	46.4
2050年	28.3	47.2

単身世帯比率の大幅な上昇は、医療費の増大や介護サービス需要の拡大に影響を及ぼすと予想されています。特に介護は、サービスの担い手不足が現時点でも課題になっています。人口問題は一朝一夕で解決する問題ではないため、今のうちからしっかりと準備をしておく必要があるのではないのでしょうか。



1999年からFP業務を行っています。現在はIFAとして最適な金融商品の選定やアドバイス、ライフプラン相談、事業承継や相続、保険相談を中心に活動しています。年間200人以上の方や、企業・医療法人や個人経営者まで幅広くお金のご相談をさせていただいています。

株式会社リスクマネジメント・ラボラトリー 大阪支店
〒543-0018 大阪市天王寺区空清町8-33 大阪府医師協同組合東館3階
電話06-6766-1511 携帯090-1152-3889 メール yoneda760@rml.co.jp

ちょっと気になるお金のコラム

年間の宝くじの購入金額、8088億円

年末のジャンボ宝くじは1等前後賞合わせて10億円、10億円あれば・・・と夢を膨らませて購入した人もいたのではないのでしょうか？

2022年（公表されている最新）の年末ジャンボ宝くじの売上金額は1078億円、1枚300円なので約3億5,933万枚、日本人一人当たり約2.8枚購入したことになります。

宝くじを購入するときに、「売り場」や「開運日」などにこだわる人もいますが1等が当たる確率をご存知ですか？下表は年末ジャンボ宝くじの等級ごとの当り本数です。

等級	金額	本数 (23ユニット)	1ユニット当たり の本数
1等	700,000,000	23	1
1等の前後賞	150,000,000	46本	2
1等の組違い賞	100,000	4,577本	199
2等	10,000,000	184本	8
3等	1,000,000	9,200本	400
4等	50,000	46,000本	2,000
5等	10,000	460,000本	20,000
6等	3,000	4,600,000本	200,000
7等	300	46,000,000本	2,000,000

1ユニットは2000万枚なので1等が当たる確率は1/2000万、ということになります。2000万枚を購入すれば1等から7等までのすべての当たり賞金29億9990万円を手にすることができますが、購入代金は60億円（2000万枚 × 300円で計算）となります。少し考えさせられる方もいるかもしれません。

年末ジャンボ以外も含めた宝くじ全体の年間売上は8088億円（令和5年）だそうです。配分の割合は以下の通りです。

当選金	3,780億円	46.70%
公共事業等	2,964億円	36.70%
印刷経費、売りさばき手数料	1237億円	15.30%
社会貢献広報費	107億円	1.30%

10億円の夢をみながら年を越し、はずれても地域の公共事業に役立つと思えばよいかもしれませんね。

初詣のお賽銭は約284億円

年が明けると初詣です。2009年までは警察庁が初詣の入出を公表していました。2009年の正月三が日の全国の初詣参拝者数は約9,939万人だったそうです。2009年当時の日本の人口は約1億2,775万人なので、全人口の約77.8%の人が初詣に行ったことになります。

初詣と言えばお賽銭ですね。2019年の大手生命保険会社の調査によると、お賽銭の全国平均は286円だったそうです。現在の日本人の人口は約1億2,000万人なので、その78%が初詣に行くと約9,481万人、仮に1人当たりのお賽銭額が300円だとすると約284億円になります。

年末ジャンボ宝くじと合わせると、12月から1月にかけて約1,300億円の資金が動いていることになります。

マネープランの重要性

宝くじで夢をみたり、神仏に祈願するのもよいですが、現実的な計画も必要です。今年は団塊の世代が全員75歳以上の後期高齢者になる年です。

医療・年金・介護などの社会保障制度の見直し議論がますます盛んになると予想されます。

将来の夢やお子さまの夢を実現するため、備えある老後を迎えるため、自身のマネープランもしっかりと作っておきましょう。

